

学生目線の観光プラン

大分・別府地域の魅力紹介

日本文理大と兵庫の学生 関西でPRへ

【大分】大分観光のモデルコースを提案しようと、日本文理大(大分市)と大手前大(兵庫県西宮市)の学生が11日、大分・別府両市内でフィールドワークをした。学生目線でお薦めプランを作成。関西からの観光客向けに公開する。



高崎山自然動物園でサルの親子を撮影する学生

地域の魅力の再発見と活性化を考える合同プロジェクト。学生同士が交流を通じて視野を広げ、プレゼンテーションや合意形成の能力向上を目指す。

大手前大現代社会学部の坂元英毅准教授が2017年から3年間、日本文理大で教えていた縁で実現した。「大分の人々は地域への思いが強く、危機感を持って積極的に行動している。関西の学生にとって刺激や新しい学びがあるので」と期待。観光施設や店だけでなく、そこで頑張る人にもスポットを当ててほしいという。

大手前大現代社会学部の3、4年生19人がフェリーで大分港に到着。日本文理大の工学部と経営経済学部の2、4年生8人と合流した。8月からオンライン

ミーティングを開き、日帰り観光プランを練ってきた。

4班に分かれ、大分市の高崎山自然動物園や大分マリンパレス水族館うみたまご、県立美術館、別府市の大分香りの博物館、別府海浜砂湯などを巡った。日本文理大2年の平松直樹さん(20)は「海と山が近く食べ物もおいしい。別府だけじゃない地元大分の魅力を知ってほしい」。

大手前大の学生はほぼ全員が初来県。「大分といえど温泉」のイメージが強かったという。4年の樽尾陽奈さん(21)は「観光資源が豊富。商店街の取り組みやとり天などの大分グルメ、フェリーでの過ごし方も紹介したい」と話した。

独自の切り口でプランをまとめ、年内にオンライン発表会を開催。本年度内にタブロイド判のフリーペーパーとして発行する。関西の駅や公共施設などに置く予定。

(藤沢香)